

I 第43週の発生動向 (2014/10/20~10/26)

1. 咽頭結膜熱については、患者報告数が前週の17人から25人に増加し今後の発生動向に注意が必要です。
2. 感染性胃腸炎については、患者報告数が前週の63人から139人に増加し今後の発生動向に注意が必要です。
3. 水痘については、むつ保健所管内で第41週から**注意報**が継続しています。

II 第43週五類感染症定点把握

青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県感染症発生動向調査 TOP ページをご覧ください。

疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		前週からの増減	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		数	人/定点	数	人/定点
小児科 内科 (90) インフルエンザ															0				
(79) RSウイルス感染症	4	0.5	5	0.6	6	0.6			2	0.3	3	0.8	20	0.5	-2			4	0.5
(80) 咽頭結膜熱	1	0.1	20	2.2					3	0.6	1	0.2	25	0.6	8			1	0.1
(81) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	0.8	9	1.0	12	1.2	1	0.2					28	0.7	8			6	0.8
(82) 感染性胃腸炎	56	7.0	12	1.3	37	3.7	2	0.4	13	2.2	19	4.8	139	3.3	76			56	7.0
(83) 水痘	2	0.3	9	1.0	2	0.2			12	2.0	18	4.5	43	1.0	7			2	0.3
(84) 手足口病	15	1.9	3	0.3									18	0.4	9			15	1.9
(85) 伝染性紅斑			4	0.4	4	0.4	1	0.2	4	0.7			13	0.3	5				
(86) 突発性発しん	4	0.5	6	0.7	10	1.0	1	0.2	6	1.0			27	0.6	10			4	0.5
(87) 百日咳															0				
(88) ヘルパンギーナ	1	0.1	1	0.1	1	0.1			2	0.3			5	0.1	0			1	0.1
(89) 流行性耳下腺炎													1	0.0	0				
眼科 (91) 急性出血性結膜炎															0				
(92) 流行性角結膜炎			1	0.3	1	0.5							2	0.2	-1				
基幹 (97) クラミジア肺炎															0				
(98) 細菌性髄膜炎															0				
(100) マイコプラズマ肺炎													4	0.7	-5				
(101) 無菌性髄膜炎															0				
(82) 感染性胃腸炎(ロタウイルス)															0				

は警報、は注意報。「空欄」:患者発生無し。

III 全数把握疾患 (掲載数は最新情報)

- ・結核(二類全数把握疾患): 東地方+青森1人、弘前2人、五所川原2人、上十三3人 (2014年計:319人)

IV 病原体検出情報 ※ () 内は、検査材料及び検体採取日、検出数です。

- ・上気道炎患者(咽頭ぬぐい液、10/1)・・・RSウイルスA: 弘前 (1)
- ・下気道炎患者(鼻汁、9/22)・・・エコーウイルス11型: 弘前 (1)
- ・無菌性髄膜炎患者(ふん便、髄液、10/5~10/7)・・・エコーウイルス30型: 青森市 (2)

感染症の窓

E型肝炎 (四類全数把握疾患)

E型肝炎は、E型肝炎ウイルス (hepatitis E virus:HEV) による急性ウイルス性肝炎です。HEVはアジアにおける流行性肝炎の重要な病因ウイルスであり、中央アジアでは、E型肝炎はA型肝炎と同様、秋にピークに達しますが、東南アジアでは雨期に、特に広範囲の洪水の後に発生します。伝播は糞口経路で、途上国では主に水系感染ですが、日本では汚染された食品や動物の肉や内臓の生食による経口感染が指摘されています。潜伏期間はA型肝炎より長く、平均6週間といわれています。臨床症状はA型肝炎と類似しており、予後も通常はA型肝炎と同程度で慢性化することはありません。しかし、妊婦末期に感染すると劇症化しやすく、致死率も20%に達することもあります。症状は、悪心、食欲不振、腹痛等の消化器症状を伴う急性肝炎を呈します。

近年の全国における患者報告数は、2012年にピークを示していますが、本県においては、2008年以降、0~3人の範囲で推移しており(図1)、今年(2014年)は第41週現在で2人の報告があります。2008年から2014年第41週までの報告においては、男性が多く(男性8人、女性1人)、年齢層別では50歳代以上がほとんどです(図2)。

治療としては、他の急性肝炎と同様に対症療法のみで、劇症肝炎に対しては、血漿交換などによる治療が必要となります。予防としては、汚染地域と考えられる地域に旅行する場合に、飲料水、食物に注意し、基本的には加熱したもののみを摂取するように心がけましょう。特に、感染源になると考えられているブタ、シカ、イノシシなどの肉・内臓を食する場合には十分加熱することが大切です。

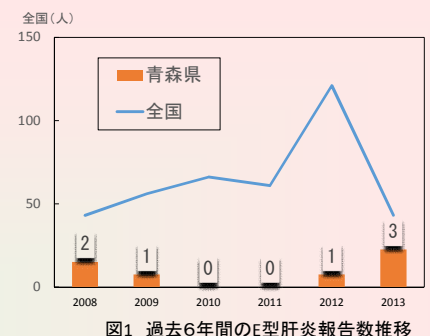


図1 過去6年間のE型肝炎報告数推移

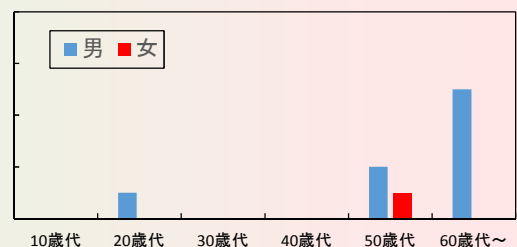


図2 本県における性別・年齢別報告数(人) (2008年第1週~2014年第41週)

V 保健所管内別全数把握疾患発生状況（2014年第27週～第43週）

週	期間	東地方+青森市	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ
27	H26.6.30 ~ H26.7.6		侵襲性インフルエンザ菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感染症1人 つつが虫病1人		
28	H26.7.7 ~ H26.7.13			腸管出血性大腸菌感染症1人			
29	H26.7.14 ~ H26.7.20	A型肝炎1人 クロイツフェルト・ヤコブ病1人	E型肝炎1人				
30	H26.7.21 ~ H26.7.27						
31	H26.7.28 ~ H26.8.3	後天性免疫不全症候群1人 梅毒1人		腸管出血性大腸菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感染症2人	
32	H26.8.4 ~ H26.8.10	A型肝炎1人 レジオネラ症1人					
33	H26.8.11 ~ H26.8.17	腸管出血性大腸菌感染症4人					
34	H26.8.18 ~ H26.8.24			腸管出血性大腸菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感染症1人 後天性免疫不全症候群1人	
35	H26.8.25 ~ H26.8.31						
36	H26.9.1 ~ H26.9.7	デング熱1人	腸管出血性大腸菌感染症1人		腸管出血性大腸菌感染症1人	腸管出血性大腸菌感染症1人	
37	H26.9.8 ~ H26.9.14					腸管出血性大腸菌感染症1人	
38	H26.9.15 ~ H26.9.21						
39	H26.9.22 ~ H26.9.28					腸管出血性大腸菌感染症1人	
40	H26.9.29 ~ H26.10.5		レプトスピラ症1人			腸管出血性大腸菌感染症2人	
41	H26.10.6 ~ H26.10.12			カルバペネム耐性腸内細菌感染症1人 つつが虫病1人			
42	H26.10.13 ~ H26.10.19			カルバペネム耐性腸内細菌感染症1人 ジアルジア症1人		腸管出血性大腸菌感染症1人	
43	H26.10.20 ~ H26.10.26						

VI 結核(二類全数把握疾患) (2014年第33週～第43週)

単位：人

週	期間	東地方+青森市	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ
33	H26.8.11 ~ H26.8.17		1	4		2	
34	H26.8.18 ~ H26.8.24	2	2	6	1		
35	H26.8.25 ~ H26.8.31	1	2	12	1	1	
36	H26.9.1 ~ H26.9.7	1	5	3		1	
37	H26.9.8 ~ H26.9.14	3	3	7	1	1	
38	H26.9.15 ~ H26.9.21		1	4	1	1	
39	H26.9.22 ~ H26.9.28		1	3	1	2	
40	H26.9.29 ~ H26.10.5	1	2	3			1
41	H26.10.6 ~ H26.10.12	2	6	4	1	1	
42	H26.10.13 ~ H26.10.19			3	1	2	
43	H26.10.20 ~ H26.10.26	1	2		2	3	

VII 全数把握疾患発生状況(全国-青森県)

(注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています)

全国

(2014年第1週～第41週累計)

分類	二類	二類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	オウム病	回帰熱	Q熱	コジジオイトス症	重症熱性血小板減少症候群	チンガニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎	ブルセラ症	ポリオス症	マラリア	野兔病	ライム病	
累積報告数	20194	4	98	3573	43	15	112	409	15	8	1	1	1	56	10	117	312	186	2	10	1	51	1	11	
分類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	レジオネラ症	レプトスピラ症	アマーバ赤痢	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンガ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	先天性風しん症候群	梅毒	破傷風	パニコマイン耐性腸球菌感染症	風しん	麻しん	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	水痘(入院例)	薬剤耐性アシネトバクター感染症	播種性クリプトコックス症		
累積報告数	955	34	870	191	368	85	137	213	1188	48	154	27	1337	9	1274	106	38	291	451	55	34	4	3		

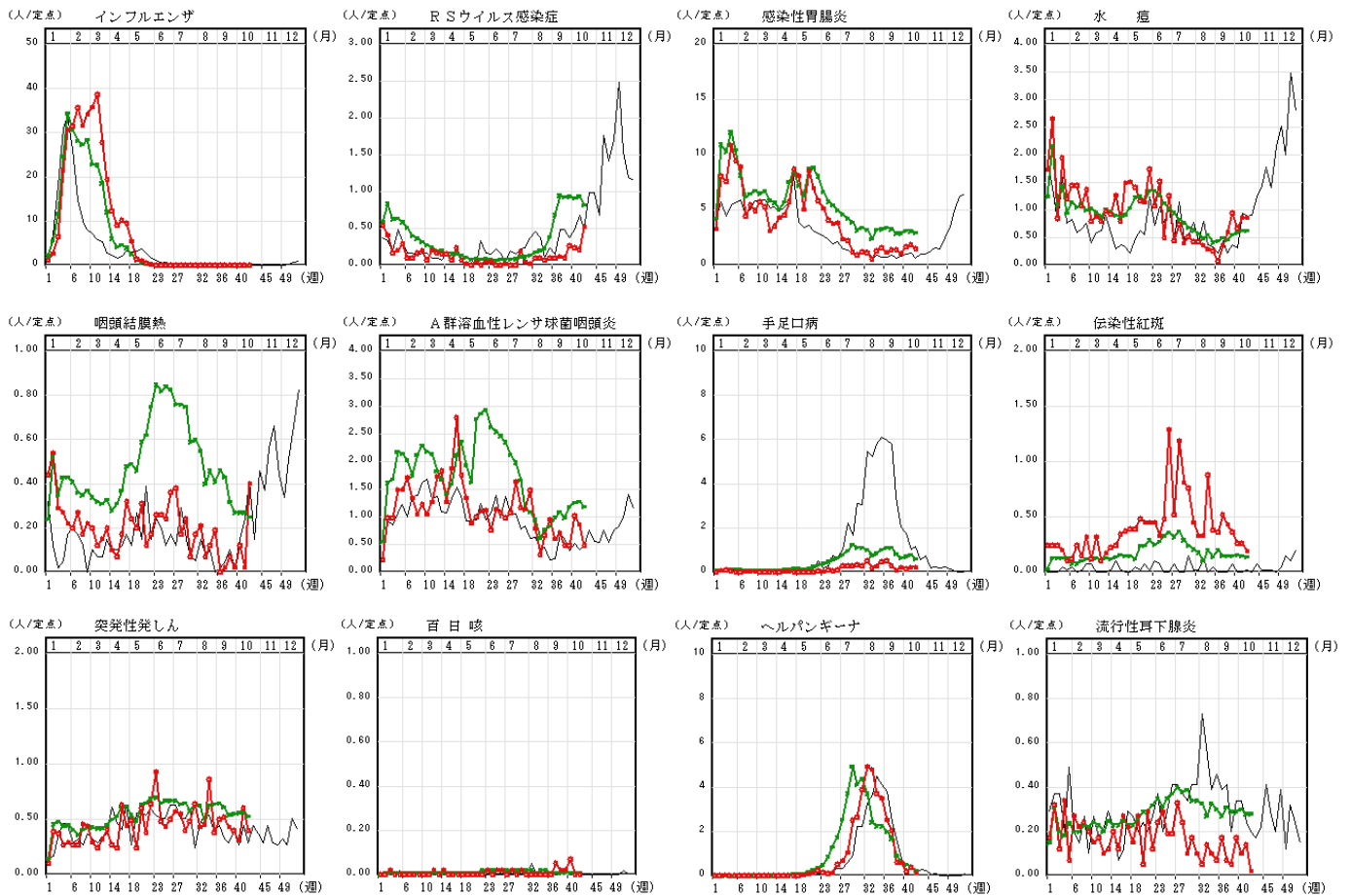
青森県

(2014年第1週～10月28日9:00累計)

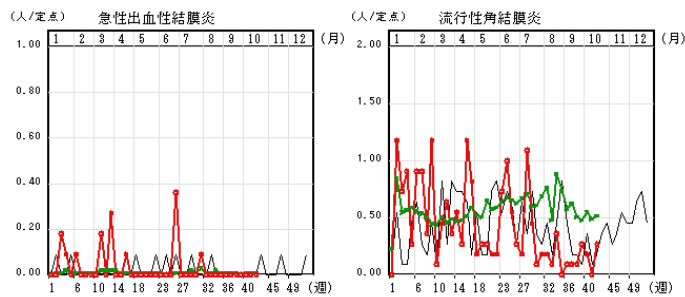
分類	二類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	E型肝炎	A型肝炎	つつが虫病	デング熱	レジオネラ症	レプトスピラ症	アマーバ赤痢	急性脳炎	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンガ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	梅毒	破傷風	カルバペネム耐性腸内細菌感染症				
累積報告数	319	19	2	3	11	1	3	1	6	8	1	1	4	1	1	6	4	1	2				

VIII インフルエンザ・小児科定点把握疾患週別推移 (2014年第42週)

グラフの説明 ○—○は2014年青森県、—は2013年青森県、×—×は2014年全国



IX 眼科定点把握疾患週別推移 (2014年第42週)



X 基幹定点把握疾患週別推移 (2014年第42週)

